

# 人間行動学科 地理学コース

## ● 地理学コースとは

当コースは5名の教員(うち1名は大学院兼任)と約40名の院生・学部生から構成されています。2年生はまず地理学に必要な野外調査と資料分析のスキルを身につけます。3年生は引き続き野外調査のスキルを磨くとともに、学術文献を渉猟し、地理学研究の視角を養います。その上で4年生は就活などと並行して卒業論文の調査・執筆に従事します。就職先は一般企業、教員、大学院などで例年堅調です。

地理学コースの魅力は何と言っても野外、つまり様々な場所について学ぶことができる点です。知らない場所です新しい発見をし、それを研究として深めていくことは地理学の醍醐味と言ってよいでしょう。そのため各学年、各授業でもそうした機会を設けています。

つまり、当コースは好奇心旺盛で、知らない場所や人との出会いに心を持てる人に最適のカリキュラムを準備しています。

## ● 先生の研究



教授 やまざき たかし 先生  
山崎 孝史 先生

人文地理学、特に政治地理学という分野の研究をしています。日本ではそれほど研究者は多くなく、米国で博士号を取得しました。政治地理学とは、簡単に言うと、政治的な出来事(白熱した選挙戦、施設建設反対運動、戦争や紛争)が特定の場所で起こる原因、経過、背景を探ります。具体的には第二次世界大戦後の沖縄県における米軍基地問題をテーマに研究を続けてきました。実は沖縄県内では米軍基地をめぐる県民感情は一律ではありません。基地の有無や県内地域(諸島)によって異なっており、基地反対運動や選挙結果にも差異が現れ、それは時と共に変化します。そういう地域的差異と歴史的变化の解明が中心の研究テーマです。基地問題について沖縄県を一括りにして語ることはできない、というのが私の基本的姿勢です。

## ● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ  
もともと人間行動学科に興味があり、各コースの先輩方の卒論や、書籍などを読んで志望コースを考えました。その中で、地理学という分野、特に社会地理学に惹かれたのがこのコースに入ったきっかけです。社会学コースに進まなかったのは、同じ社会現象を扱うにしても、「地理学的視点から」分析することに魅力を感じたからです。

○自身の興味  
人々が持つ社会的つながりと地域の関係性に興味を持っています。具体的には、性的マイノリティ向けの施設や、彼らの居住地が集中している地区について知りたいと思っています。地理学は非常に範囲の広い学問で、「性的マイノリティ」のような一見すると地理学と関係がなさそうに思える対象もあつかわることができます。

○コースの雰囲気・特徴  
コースの行事として、地理学の研究方法のひとつであるフィールドワークを行うのが大きな特徴です。先生や他の学生の解説を聞きながら実際にまちを見て歩く機会はとても貴重なものです。こうした経験を積むと、普段、何気なくまちを歩くことも面白くなります。



3回生 かわさき しおり  
川崎 汐璃 さん

## ● 教員紹介

**大場 茂明 教授** Shigeaki Oba  
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究  
『現代ドイツの住宅政策—都市再生戦略と公的介入の再編—』(明石書店、2019)

**祖田 亮次 教授** Ryoji Soda  
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害文化、東南アジア地域研究  
People on the move: rural-urban interactions in Sarawak (Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2007)

**山崎 孝史 教授** Takashi Yamazaki  
グローバルな政治経済的変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖縄研究。  
『政治・空間・場所—「政治の地理学」にむけて [改訂版]』(ナカニシヤ出版、2013)  
共編書『現代地政学事典』(丸善出版、2020)

**木村 義成 准教授** Yoshinari Kimura  
地理情報システム、保健医療分野におけるGISの応用研究  
「大阪市における消化出血患者の搬送特性からみた地域グループ」木村義成  
史林 103(1), pp.215-241, 2020.

**水内俊雄 教授(兼任)** Toshio Mizuuchi  
近代都市の社会問題・住宅問題の歴史的研究や日本・東アジア、欧米の脱ホームレス支援や都市再生に関わる社会地理学的研究。  
共著『都市の包容力』(法律文化社、2017)、  
『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相』(都市研究プラザ、2019)、  
『ジェントリフィケーションを超えて』(都市研究プラザ、2020)  
※(本務) 大阪市立大学都市研究プラザ

多面的な対象について、地理学のアプローチがわかりやすく解説されています。本書を読むと、人文地理学の全体像のみならず、地理学を通して、過去から現在(そして未来)の問題へと、そして人間相互の関係から人間と空間・環境の関係へと、私たちの思考をどのように拡充できるかがわかるようになるでしょう。

## ● 卒論タイトル例

- ・ 地域商店の商品流通から見る山間集落の多生業性—日高川上流寒川地区の150年—
- ・ 高架下空間の利用変化と課題—大阪環状線における「駅から始まる街づくり」の実態—
- ・ 変容する葬儀と死の受容—複数地域における活動団体からの考察—

## ● 地理学コース オススメ入門書

『人文地理学への招待』  
【著者】竹中克行編著  
【紹介】